

カリキュラム

機構施設名： 沖縄職業能力開発促進センター
 実施機関名： 合同会社ヤオヨロズテック

A.バックオフィス	DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
-----------	-------------------------

コースのねらい	DX(デジタルトランスフォーメーション)による企業変革の有効性を理解し、自社のDX推進に向けたポイントを習得する。
---------	---

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
	1	DX概論	(1) DXとは ・企業運営で避けては通れないDX(デジタル・トランスフォーメーション)の背景とその必要性を考察する。DX時代の具体的なITツール(ERP、グループウェア、RPA、BIツールなど)とその課題について解説。DXは単なるIT化ではなく、企業の事業を変革することであることを理解させる。 (2) 企業に求められる変革 ・第4次産業革命時代における今後想定される破壊的イノベーションを念頭に、データとデジタル技術の活用によって、どのような新たな価値を目指すのか、企業に求められる変革から自社に照らして考察する。 (3) DXの認知・理解(目標設定) ・DXの推進にあたって、経営者および管理者層自らが変革に強いコミットメントを持ってどう取り組んでいくのかのガイドラインとなる指標および目標の設定について解説する。
2	DX導入事例	(1) DXに成功した事例紹介 ・経営戦略とビジョンの実現と紐づけられた形で、経営者および管理者層が新しい挑戦を促してデータやデジタル技術を活用して新たなビジネスモデルを構築した取り組み事例を紹介する。 (2) 成功の要件(戦略性、費用対効果) ・紹介した事例から成功要件となる3つのポイントを解説する。DXの推進はすぐに完了・成功するものではなく、全社を挙げて中長期的な視点で進めていくことが重要であることを理解する。	1.5
3	DX戦略の導入	(1) DX推進体制の整備 ・DXを成功させるために、経営者および管理者層がDXでどのように価値を生み出し、どのようにビジネスを変革するのかを明確にし、推進のための人材や予算を割り当て、現場との意思疎通を図りながら、社内全体の意識を変えていくための体制整備について解説、考察する。 (2) 業務プロセスの再設計 ・DX推進に集中するための業務効率化・改善とビジネスモデルの変革を実行するために必要となる業務プロセスの再設計について解説する。自社においても業務の可視化、業務改善がどのように影響するのかを考察し、DX推進の短期的取組イメージを具体的に示す。 (3) DXの具体的な取組領域の決定 ・業務環境のオンライン化、デジタル化、顧客視点のデジタル化によって見えてくる、自社では難しい協調領域と自社の強みである競争領域を識別し、各領域への戦略的な具体的な取組みを決定するプロセスおよび考え方を解説し、自社に置き換えて考察する。 (4) DXを推進するためのデジタル技術の概要 ・DX推進を加速させるために必要不可欠となるデジタル技術について解説する。各デジタル技術を活用することで、ビジネスがどのように変革していくのか、経営戦略的な視点で理解し、DX推進計画の具体的な立案ができるようにする。	2.5
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・DXが抽象的であるため、まずは基本的な新技術についての流れや現状についてイメージしやすいように事例を用いて解説し、自社の業務の課題と照らし合わせられるような演習を盛り込みます。 ・DX時代に必要な新技術や事例など演習を挟みながら理解状況を把握して進め、解説については専門用語は多用せず、分かりやすい例えを使い理解を促します。特に、活用が避けられない対話型・生成AIについてはデモ実演を通して活用のイメージを具体的に持っていただきます。 ・演習内で設定した課題と新技術活用事例が紐づくように演習を実施し、現場で活用できるアウトプットを目指す。
---------------	---